

陳 情	受 理 番 号	52	受 理 年 月 日	令和 8 年 1 月 30 日	付 託 委 員 会	厚生経済
件 名	mRNAワクチン（レプリコンワクチン含む）接種事業中止を求める陳情					

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願
いいたします。

mRNA ワクチン（レプリコンワクチンを含む）接種事業中止を求める陳情書

【要旨】

mRNA ワクチン（レプリコンワクチンを含む）の国民への接種を中止すること。この陳情書の検討にあたっては、資料を確認し熟慮の上で行うこと、また、この陳情の審査結果は、議会だより等に掲載し、広く住民への周知をお願いしたい。

【理由】

全国の市民が行った「コロナワクチン接種データ開示請求プロジェクト」の全国 126 の市区町村、4,200 万回接種後死亡観測データ（令和 8 年 1 月 12 日時点）によると、コロナワクチン接種当日と翌日の死亡者は、594 人となっています（資料 1）。また、死亡者の新型コロナワクチン接種者の死亡記録をみると、最後のコロナワクチン接種から約 3~4 か月後に死亡数のピークがあり、接種後の半年以上もの期間で死亡数が上昇していることやロットにより差があること等がわかってきました。資料 2 は厚労相の人口動態統計をもとに作成したグラフです。2021 年コロナワクチン接種開始以降、死亡数の増加が続いていることが見てとれます。決して看過することはできません。

新型コロナワクチン接種による予防接種健康被害救済認定数（令和 7 年 12 月 23 日時点）は、累計進達受理件数 14,660 件、累計認定数 9,412 件、死亡一時金または葬祭料に係る件数を含む累計認定数 1,059 件 となっています。しかし冒頭の自治体から開示されたデータをふまえると、これらの数字は氷山の一角であることが明確です。資料 3 はインフルエンザワクチンとコロナワクチンの副反応、死亡数を比較したもので、コロナワクチン接種によって死亡する確率は、インフルエンザワクチンより高いという報告です。

新型コロナワクチンで使用されたメッセンジャー RNA ワクチン（以下 mRNA ワクチン）は、「標的細胞」が特定されぬまま特例承認として接種が開始されました。筋肉注射された薬液は全身をめぐるため、あらゆる細胞が mRNA を取り込む可能性があり、その結果スパイクタンパク質を発現した細胞は自身の免疫機能の攻撃を受けます。このスパイクタンパク質は、当初すぐに分解されると説明されていましたが、接種後長期にわたり検出されたという論文が発表されています（資料 4）。また、新型コロナワクチンの繰り返し接種では、IgG4 の誘導等による免疫抑制などが懸念されており、人体への影響は長期に及ぶものと考えます。厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部長および厚生労働省 医薬局長から各都道府県知事に出された「定期的予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正等について（令和 6 年 8 月 8 日 感発 0808 第 5 号 医薬発 0808 第 1 号）の中でも、新型コロナワクチン接種後の長期にわたる影響、発症までの期間が長いことなどに触れられており、現時点での新型コロナワクチンの安全性の検討は不十分であると考えます（資料 5.資料 6）

那覇市議会には住民の生命と健康を守るために、慎重かつ責任ある対応を取っていただけることを強く求めます。